

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット／1階ユニット)

事業所番号	2794400032		
法人名	医療福祉生活協同組合おおさか		
事業所名	グループホーム野江ゆおびか		
所在地	大阪府大阪市城東区成育4丁目6番29号		
自己評価作成日	令和5年7月27日	評価結果市町村受理日	令和5年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共用型デイサービスを開所し、認知症生活共同の場として、認知症に特化したアプローチが出来るように取り組んでいます。
入居者様、利用者様のニーズに答えていけるように、皆様・家族様が参加して頂けるイベントを職員が一丸となって考え開催しています。コロナ渦で発信できるツールを選択し共有できるような取り組みを推進します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この地に開設して14年弱、本年4月に新法人 医療福祉生活協同組合おおさか(府下五つの医療福祉生協合併)の下に、理念「自由にその人らしく暮らせる家」で、ゆっくりと、足早に、衰える時間を一步步つ歩むひとり一人に寄り添い、様々な視点で利用者を見ることで本人の望む支援を継続したいと努力している。フロア会議や全体会議には全員が参加、研修受講後のレポートで内容を確認、アセスメントに全員が関るなど偏りのないケアの実践に努めている。他職・他所から入職の職員が、日々の仕事を楽しみ、利用者の笑顔が嬉しく生き方を学ぶ、介護職を続けたいと語る姿は、家族からの職員の日々の実践への称賛と感謝の言葉と重なる。重度化する現実に向き合いながらも、「家に帰りたい」を実現させたいと解決法を探る姿勢が印象的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2011年3月の総括会議で論議して、策定した。 策定後は、事業所玄関に掲示したり、送り物の帳票にて職員間で理念を共有できるようにした	理念「自由にその人らしく暮らせる家」を念頭に、個々人の食事、入浴、就寝などの自由、今できること・出来ないことをどうする、と共同生活を基本としつつケア会議等で検討し、より良い実践に向けて日々努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症の影響により地域のお祭りや、認知症カフェへの参加できていなかったが、本年度は開催予定のため参加予定である。	従来の地域とのつきあいは、参加を予定していた行事などが地域の事情や意向により中止となり自粛中である。久しぶりの組合員(生協)を招いてのソーメン流しは大盛況で、家族に嬉しい、楽しい写真を届けることが出来た。管理者が地域の小学校高学年生対象のキャラバンメイト講座講師を勤め始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症の影響により運営推進会議の開催はできていなかったが、文書でのやりとりを経て昨年より開催できている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が開催を通して、地域や利用者目線の話聞くことでサービス向上に繋がっている。	コロナ「5類」移行後は規定の会議を実施している。地域包括職員と事業所関係者以外が、町会長と組合員(生協)のみとする点を課題とする。事業所各種報告と地域行事や地域包括の情報などを会議内容としている。議事録を関係諸氏に送付しているが、事業所方針として家族への送付は無しとしている。	会議内容の一つであるヒヤリハット・事故報告を件数のみとしているが、発生状況、再発防止策などを内容とすることを推奨する。加えて、構成員の拡充、参加想定し得る諸氏への参加の働きかけによる会議の活性化がサービス向上に繋がることを期待する。家族への議事録配布についての検討を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	城東区社会福祉施設連絡会への参加・高齢者部会の参加をしている。	地域包括と紹介による入居者(公的扶助者)についての相談、関係部署との連携の他、業務上の担当課との関係性は良好である。市内全介護事業者代表によるネットワーク推進会議、月1回のグループホーム連絡会に参加し、11月開催予定の認知症フェスタに参加を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会設立しメンバーでの話し合い、学習会を実施し職員に発信している。	身体拘束・虐待禁止の指針を整備し、既定の会議を実施している。職員は会議録を閲覧、研修会で拘束禁止への理解を深め、日常での困難事例・疑問などを率直に話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会にてどのようなことが該当するのか学び、フロア会議でも話あい記録に残し共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的には取り組めていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホーム入居受付手順を作成し、それに沿い説明をおこなうことで、納得してもらえるように図っている。また、利用料金の変更等都度事前に手紙や、ホーム新聞にてお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護事業所不適合管理手順書や苦情受付書を作成し、使用することで、家族および本人の要望をとりいれられるように職員にも周知している。	法人による年1回の満足度アンケート、事業所による3ヶ月に1回の個人別アンケートで、家族の意向を把握して対応する仕組みがある。「新聞・本を読ませて」「手伝いを続けさせて」など今までの暮らしの継続を望む声に答えて、ケアプランに反映させるなどの対応がある。月1回の全員写真付きの広報、年1~2の個人的アルバム・コメント付きの便りを届けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議で運営に関する職員からの意見・提案する機会をつくり、要望を取り入れる機会を設けている。希望に多かった休憩室を作り職員にも安らげる環境を作った。	月1回のフロア会議と年1回の全体会議(何れも休日参加に報酬有)での意見・提案を月1回の運営会議(管理者・リーダー・ケアマネジャー)で検討し運営に反映する一方、運営に関する諸事項をフロア会議で伝達している。休憩時間の取り方、オムツ管理・物品購入など、職員間の話し合いでの解決もあるとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員・非常勤職員共に就業規定ができています。個々の力量に応じた業務を割り当てることで向上心をもって働けるように図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時と、毎年1回力量チェックをおこない。その結果に応じて、教育訓練の計画を立てている。Web講習の実施で個々に合わせて学習内容を提示し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の介護事業者が集まる会議への出席や、活動(認知症キャラバンメイト)等に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要求事項明確化手順書を作成し、その内容にそって入居者の要求する事項を明確にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要求事項明確化手順書を作成し、その内容にそって入居者の要求する事項を明確にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する前にアセスメントをおこない、現在必要とするサービスへつながるようにケアマネージャーと連絡をとり情報共有し、必要なサービスにつなげることができるようにしている。時には外部の自費サービスの提案を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービスする側・される側の位置づけにならないように食事作りや掃除等のホーム内でおこなうことは職員と入居者協同でおこなう。職員が全て決定するのではなく、入居者様にも自己決定できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡をとりやすいようにメールでの情報共有をおこなったり 月に一度ホームでの様子をお伝えする手紙を郵送している。コロナで直接面会できなかったが、条件を設け面会の再開をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様から写真を預かり、ご友人や家族様、場所を見ていただくことで大切にされていた気持ちを大事にしている。	総体に馴染みへの関心は希薄であるが、コロナ禍で面会制限が続き、その傾向は強くなるのではと危惧している。知人からの問い合わせにも個人情報云々で家族の了解を必要としており、その人らしさを大切にしながら、所内での馴染み関係が良好に保たれるよう支援したいと努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	訴えられる方だけでなく、訴えの出来ない方にも声かけし、一緒に過ごすことで孤立しないように配慮している。また、デイの方含め入居者同士が関わりが持てるようなイベントを考え、実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設等へ移動になり、退去になられた方についても定期的に連絡が入り入居者様だけでなく、家族様も落ち着かれるまでは相談業務として運営している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とコミュニケーションを密にはかり、ご本人の思いを聞きケアプラン作成につなげ、行動も注意深く観察し、職員間で共有している。又ご家族からもお話を聞き、アンケートによる意向の把握も実施している。	接遇時の機会を活かして丁寧に傾聴し、小さな弦きのキャッチを疎かにせず、今やりたいこと、できること、やりたくないことに注意して、その人らしさを見逃さない、見過ごさないよう日々の支援に努めている。「家に帰りたい」を実現させたいと手立てを模索中としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の来訪時や計画書をお渡しする時などご家族に会える機会にお話を聞くようにしている。また、アンケートの内容からケアに繋げるようにしている。会議等で生活歴や家族様とのつながりを職員に伝えることで、その方との関わり方やケアに繋がるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の引き継ぎの中でスタッフ間で情報共有し、個人記録を用いて情報の記録も行っている。また、パーセルインデックスの内容や実施状況の評価を周知することで担当者以外からの情報収集、ケアにつなげる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフ共同で情報収集を実施。各入居者様毎に担当スタッフを決め、計画作成担当者と共にアセスメント実施後、介護計画(案)を立案、更新時に評価している。ご家族の意向も反映させた形での計画書を立案し1回/2か月モニタリングを実施している。	6ヶ月毎の担当職員と他の職員とによる9項目についてのアセスメントを基にケアカンファレンス(具体的な支援内容検討・変更と追加内容確認)を行い、家族アンケートを参考に、医師・理学療法士(生活機能向上連携加算Ⅱ)の所見を加味した計画を作成し、随時に見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の過ごし方がわかるような個人記録を用いその方の状況が把握できるようにしている。ケアについて検討が必要な際はプリセプター、リーダーが中心となり、ケアの見直し、実施を行なっている。また、ノートを用いて都度情報収集、共有につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	診療所やその他の機関と連携し、その方の求めるサービス提供ができるように努めている。家族様の理解のもと、ご本人様に必要とされる自費でのサービスも受けられるように提案、実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議を定期的実施し、町会の行事や法人関連の診療所が主催する催しにも計画的に参加出来るように考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご本人及びご家族の希望される医療機関への受診をしていただくよう、入所前に説明している。また、その時必要な治療ができるように意見交換ができる環境作りをおこなっている。	事業所のかかりつけ医はいるが本人、家族の希望により違う医師を選択することも可能。事業所では複数の医師による訪問診療を受け利用者の健康管理を行っている。夫々の医師とは24時間対応が可能である。他科受診が必要な場合はかかりつけ医の受診後、紹介状を持ち家族が対応する。訪問歯科による口腔内のケアも実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人記録や日誌に日々毎の身体状態を記録し 必要時各フロアリーダーないし管理者に報告する体制をつくり、状態の早期発見、ケアの実施が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先病院と連絡をとり、カンファレンスに参加し情報交換・状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針説明とご家族のお考えについて聞き取りを行っている。また、ご本人の意思の尊重をできる限りケアプランにつなげ実施出来るように取り組んでいる。	入居契約時に重度化した場合の意向確認と医療に対する希望アンケートを実施している。状態に変化があった時には医師から病状説明を行い、利用者、家族、医師、事業所で再度意向の確認を行っている。事業所では年1名程度の看取りを行い、看取った後は次の看取りに備え、利用者が穏やかに最期を迎えられるよう職員で振り返りのための会議を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに沿った対応が全職員同様に行えるよう周知の徹底を行っている。急変や事故発生時の対応について学習会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の連絡網作成済み。防災訓練を定期的実施し、避難方法について学習会を実施。地域との共同した取り組みについては地域運営推進会議を通じて体制づくりに取り組んでいきたい。城東区内で福祉避難所として協定を結んでいる。委員会を立ち上げ、BCP対策に取り組んでいる。	夜間想定を含む避難訓練を年2回実施し、職員間の連絡網を整備し実際に連絡網に要する時間を測定している。事業所は水害の危険地域にあるが避難が難しいため垂直避難をすることは職員間で共有している。火災が発生しないようオール電化にし、構造上各居室にスプリンクラーの設置は必要ないがスプリンクラーを設置し、段ボールやゴミなど燃えやすい物は置かないようにしている。	令和6年3月までに作成が義務付けられているBCP(事業継続計画)は現在作成中である。事業所での保管場所がないため調査に訪問した時には備蓄品の準備がほとんどできていなかった。災害はいつ起こるか分からないため早急に備蓄品のリストアップをし、水没しない場所に保管することを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳が保てるように、認知症に対する学習会だけでなく、モラル・接遇等を含む学習会を個々に合わせたプログラムで実施している。	接遇や個人情報に関するマニュアルを作成して、学習教材会社が実施している研修プログラムで職員が個々に学習する機会を設けている。利用者と話す時には目線を合わせる、介助する時や居室に入る時には必ず声を掛けるなど一人ひとりの人格を尊重した対応に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の対応のなかで、ご本人の立場に立ち自己決定できるような環境作りを心掛け支援を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ニーズに沿ってご本人、家族様と話し合いを行ったり、各入居者様の希望にそった支援ができるように担当者が率先して情報収集や会議を通して職員間で話し合う機会を作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族、関係者から好みを聞き、実施の声かけを行なうことで継続して行えるように支援している。毎月の訪問理容で自分の希望を叶えることで自分らしさを維持できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りでは、作る楽しみや好みの味の調整をできるようにしている。片づけも一緒に行っている。高齢者施設ということもありマスク着用、感染予防の観点から一緒に食べることはしていない。	食品業者がメニューを考え、材料が配達される。職員と利用者と一緒に野菜を切ったり、皮を剥いたりして調理する。コロナ禍で外食に行くことはできないが、回転寿司のレーンをレンタルしてお寿司を食べたり、流しそうめん、ビュッフェスタイルで好きな食べ物を選んだり、庭でバーベキューやおやつを食べたりして食事が楽しくなるようにいろいろ工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量や栄養、水分量を日々記録し把握することで身体のよい状態を保てるようにしている。食事形態についても都度その方にあった形状を考え変更、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内及び義歯のケアをご本人の力に応じた支援に取り組んでいる。ご家族様に依頼し、洗浄剤の使用も行っている。また歯科受診時に得た情報や注意点に配慮し実施している。日々のケアの際にも変化がないか観察し、報告している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿時間の確認をおこない、出来る限り現在の状態を保つことができるように支援している。 本人様の状態に合わせてパット類や、介助方法を都度変更できるように会議等で話し合う機会を作っている。	利用者は比較的自立度が高く、日中は重度(2名)の人を除いてトイレでの排泄を行っている。夜間オムツを利用する人のパッドは安眠を重視して4時間間隔を開けるようにしている。夜間もトイレに行く人、ポータブルトイレを利用する人など、その人に合わせた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬の使用、調節に頼らないようにし、便秘を改善に役立つ食品を取り入れたり、1000ml/日以上の水分摂取の促しを実施している。集団体操のプログラムにも便秘予防の動きを取り入れている。又、連携先からの指導を頂いて口腔ケアの向上に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴曜日は決めておらず入浴したい日、時間に入浴してもらっている。入浴時間は、見守りができる時間帯は決めていない。	認知症対応型通所介護を併設しているため1日ほぼ5名の利用者が入浴する。お湯はその都度入れ替え、対応する職員も入浴当番制ではなく入浴毎に交代している。ゆず湯、菖蒲湯、入浴剤を使用して趣を変えて入浴を楽しんでいる。入浴回数や時間は特に決めていないため、利用者が希望すれば対応は可能。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、照度、音等の環境整備をおこない、ゆっくり安らげる環境づくりをおこなっている。居室で過ごされる時間は巡視をおこなったうえで訪室を控える対応もおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用・使用しているお薬の効能・副作用などを一括ファイルにし、いつでも確認できるようにしている。個々の入居者様にあった服薬介助を実施し、変更があった際は周知し状態の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員・入居者様で共同して、どのようなことにも取り組みおこなうことで、役割作りをおこない、やりがい楽しみを持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で実施できなかった散歩や外出イベント等家族様との相談のもと外出できる機会を増やせるよう取り組んでいきたい。	法人の方針で皆で外出することはできないが、近くのスーパーに買い物に行っている。認知症対応型通所介護の利用者の送迎時に一緒に車で送りに行くなど少しずつ個別で出かけることはしている。庭でお茶を飲んだり、洗濯物を干したり取り入れたり、植木の水遣りで外気に触れる機会は確保している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所で管理しているが、いつでも使えるように話をしている。また、本人でももってもらっている方もいる。外出の機会が増えればご自分で会計できる機会を作れるようにしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人・ご家族からのご希望があれば、携帯電話を所持していただくことを了解しております。ご本人の希望に沿っての電話連絡やご家族に近況をお知らせする手紙や写真の送付も一緒に行うなどしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家のような環境になるように、きれいに片付けすぎず適度にきれいな環境にしている。また、ご本人と掃除、整理整頓を行なうことで居心地よく過ごせるように配慮している。共用のフロアに関しては、皆様で作成した季節に合わせた壁画等を飾ることで季節感を感じられる空間を作れるように取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内ではソファを配置しリラックスして頂けるように好きな音楽を流したり、DVD鑑賞会をおこない皆で楽しめる環境作りに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本は畳の間であるが、絨毯(防災)を敷くなどして洋室としての使用もしていただけるように配慮。使用されていた家具の持込をもらい、自宅での生活環境に近い雰囲気作りとなるよう配慮している	全室居室は畳の部屋になっている。玄関入口に小さな土間があり履物はそこで脱いで部屋に入る。居室にはエアコン、押入れは設置されているが、それ以外の家具や防災カーテンは各自で準備する。ベッド、タンスやテレビを置いている部屋もあれば、畳の上に布団を敷いて寝る利用者など居心地よく過ごせるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事・わかることに配慮した環境づくりをおこなっている。水道やトイレの入り口にシールを貼ったりして分かりやすいよう、使いやすいように工夫をしている。		